

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	黒崎播磨株式会社 新物流倉庫	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★
------	----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	##### /5		#DIV/0!

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価	凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
----	----	----------------	--	-----------------	--	-------------------	--

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.2
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.5
LR2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 4.2
<自由記述> 屋根・外壁はビス止めまたは嵌合で納めている	<自由記述>
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.7
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.3
LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述> エネルギーを使用する設備を最小限にしている	<自由記述>
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 1.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 #DIV/0!
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級
<自由記述> 対象外	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: — 0.34 外構緑化指數 0 % 建物緑化指數 0 %



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	黒崎播磨株式会社 新物流倉庫	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年11月15日
敷地面積	8,027 m ²	作成者	江藤 均
建築面積	4,264 m ²	確認日	2017年11月15日
延床面積	7,937 m ²	確認者	大成 幸一郎

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.6 ★★☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★★ C: ★☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (建設: 3.0%, 修繕・更新・解体: 1.5%, 運用: 0.5%)</p> <p>②建築物の取組み: 66% (建設: 28%, 修繕・更新・解体: 10%, 運用: 28%)</p> <p>③上記+②以外の: 66% (建設: 46%, 修繕・更新・解体: 46%)</p> <p>④上記+: 66% (建設: 92%, 修繕・更新・解体: 92%)</p> <p>(kg-CO₂/年·m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもの</p>	<p>Q のスコア = 2.0</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q2 サービス性能</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質
Q1 室内環境
Q2 サービス性能
Q3 室外環境 (敷地内)
LR のスコア = 3.2
LR 環境負荷低減性
LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境

3 設計上の配慮事項

総合
倉庫であり、エネルギーの使用がほとんどないように計画

その他
特にない

Q1 室内環境
照明は最低限の照度を確保するにとどめ、換気は最小限の換気量とした

Q2 サービス性能
特にない

Q3 室外環境 (敷地内)
特にない

LR1 エネルギー
最小限の設備とした

LR2 資源・マテリアル
特にない

LR3 敷地外環境
特にない

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 黒崎播磨株式会社 新物流倉庫		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)						
スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目								
Q 建築物の環境品質								2.0
Q1 室内環境					0.30		-	1.8
1 音環境				1.8	0.15		-	1.8
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40		-	
1.2 遮音				3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能				-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-	
1.3 吸音				1.0	0.20		-	
2 溫熱環境				1.0	0.35		-	1.0
2.1 室温制御				1.0	1.00		-	
1 室温				-	-		-	
2 外皮性能				1.0	1.00		-	
3 ゾーン別制御性				-	-		-	
2.2 湿度制御				-	-		-	
2.3 空調方式				-	-		-	
3 光・視環境				1.8	0.25		-	1.8
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-	
1 昼光率				1.0	0.60		-	
2 方位別開口				-	-		-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				1.0	0.30		-	
1 昼光制御				1.0	1.00		-	
3.3 照度				2.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
4 空気質環境				3.0	0.25		-	3.0
4.1 発生源対策				-	-		-	
1 化学汚染物質				-	-		-	
4.2 換気				-	-		-	
1 換気量				-	-		-	
2 自然換気性能				-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮				-	-		-	
4.3 運用管理				3.0	1.00		-	
1 CO ₂ の監視				-	-		-	
2 喫煙の制御				3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.7
1 機能性				1.7	0.40		-	1.7
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-	
1 広さ・収納性				-	-		-	
2 高度情報通信設備対応				-	-		-	
3 バリアフリー計画				-	-		-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.50		-	
1 広さ感・景観				-	-		-	
2 リフレッシュスペース				-	-		-	
3 内装計画				-	-		-	
1.3 維持管理				3.0	0.50		-	
1 維持管理に配慮した設計				-	-		-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30		-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-	
1 軸体材料の耐用年数				3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				1.2	0.20		-	
1 空調・換気設備				1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-	
3 電気設備				1.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				1.0	0.20		-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり 2 空間の形状・自由さ	1階は5.6m、2階は5.2mの階高とした 必要最低限の壁量とし、ゆとりある空間とした 重量物を保管する倉庫の為、床耐荷重は3.0t/m ² とした	4.2 5.0 5.0 5.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.30 0.30 0.60 0.40 0.30 0.20 0.20 0.10 0.10 0.20	- - - - - - - - - -	4.2
	3.2 荷重のゆとり						
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性 2 給排水管の更新性 3 電気配線の更新性 4 通信配線の更新性 5 設備機器の更新性 6 バックアップスペースの確保					
	Q3 室外環境(敷地内)						
	1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-
	2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-
	3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-
	LR 建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	4.0
	2 自然エネルギー利用				3.0	0.13	-
	3 設備システムの高効率化	[BEI]/[BEIm] = 0.34			5.0	0.63	-
	4 効率的運用				2.0	0.25	-
	集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-
	4.1 モニタリング				-	-	-
	4.2 運用管理体制				2.0	1.00	-
	集合住宅の評価				2.0	-	-
	4.1 モニタリング				-	-	-
	4.2 運用管理体制				-	-	-
LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護				-	0.30	-
	1.1 節水				3.0	0.20	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.40	-
	1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-
	2 雜排水等利用システム導入の有無				3.0	0.70	-
	3.0	0.30	-	-	3.0	-	-
	2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-
	2.1 材料使用量の削減				2.0	0.14	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	-	-
	2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.29	-
	2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.29	-
LR3 敷地外環境	2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	屋根、外壁はビス止め及び嵌合で納めている			4.0	0.29	-
	3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-
	3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00	-
	3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-
	1 消火剤				-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-
	3 冷媒				-	-	-
	1 地球温暖化への配慮	エネルギーを使用する設備がほとんどない			4.3	0.33	-
	2 地域環境への配慮				1.5	0.33	-
3 周辺環境への配慮	2.1 大気汚染防止				-	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.67	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.33	-
	1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-
	2 污水処理負荷抑制				3.0	0.25	-
	3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-
	4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				2.7	0.33	-
	1 騒音				3.0	0.67	-
	2 振動				3.0	0.50	-
	3 悪臭				3.0	0.50	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					-	-	-
	1 風害の抑制				-	-	-
	2 砂塵の抑制				-	-	-
	3 日照阻害の抑制				-	-	-
	3.3 光害の抑制				2.3	0.33	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70	-
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-